



PRS PAUL
REED
SMITH
GUITARS

ARCHON 50 HEAD AND COMBO USER MANUAL

PRSアンプの使用について

ARCHON 50 HEAD / COMBOをお買い上げいただきありがとうございます。
アンプを安全に使用するため、本書をよくお読みください。本書をよく読むことは、多くの機能を十分理解してアンプの性能を最大限に引き出すことにつながります。

1. スピーカー、またはスピーカーキャビネットが高品質なスピーカーケーブルで、アンプのスピーカーアウトプットジャックと適切なインピーダンスで接続されていることをご確認ください。
2. 電源ケーブルが、グラウンド（アース）が取れている電源コンセントに接続されていることをご確認ください。
3. アンプを使用していると、徐々に本体が熱を持ちます。そのため、少なくともアンプの周辺15cmは、アンプの熱を逃がすスペースとして確保してください。アンプを壁や他の機材に隙間なく寄せて使用すること、また、他のアンプやストーブなど、熱源となるものの近くでの使用はおやめください。使用中、アンプの背面にカーテンなど、可燃物を置くことはおやめください。アンプ本体を布などで覆うなど、熱を逃がすことを妨げる行為はおやめください。アンプ上部にドリンクなどを置くことはおやめください。
4. 本製品はスタンバイスイッチを搭載せず、電源スイッチのみでアンプの主電源が入り、演奏出来るように設計されています。もしアンプの音をミュートする場合は、インプットジャックに接続されているケーブルを、クリック音が一回するまでゆっくりと抜いてください。
5. 本製品は大きな音量を出す設計になっているため、アンプの電源を入れる前に、必ずボリュームとマスターボリュームがゼロになっていることを確認してください。ギターケーブルをインプットジャックにしっかり差し込んだことを確認の上、ボリュームとマスターボリュームを徐々に上げて音量を調節してください。



本製品では大音量での演奏が可能ですが、長時間の演奏は聴覚に支障をきたす可能性があるため、ご注意ください。また、本製品に異常を感じた場合、必ず直ぐに使用を中止し、購入された販売店へ連絡の上、PRS Guitars Japanカスタマーサービスへご連絡ください。ご自身で修理を試みることは、安全上の観点から絶対におやめください。本製品を使用する際は、必ずグラウンド（アース）が取れている電源コンセントに接続されていることをご確認ください。

• **INPUT** (インプット)

ギター本体、または足元のエフェクターの最後に接続されたアウトプットジャックと、このジャックをギター専用モノラルケーブルで接続します。

• **CHANNEL SELECT** (チャンネル セレクト)

LEAD (リード) チャンネルとCLEAN(クリーン)チャンネルを選択する時にこのスイッチを使用します。

LEAD CHANNEL (リード チャンネル)

• **VOLUME CONTROL** (ボリューム コントロール)

プリアンプのボリューム・歪み・サチュレーションをこのノブで調節します。

• **BRIGHT SWITCH** (ブライト スイッチ)

オンにするとTREBLEよりもさらに高音域がブーストされます。

• **TREBLE CONTROL** (トレブル コントロール)

高音域のトーンをこのノブで調節します。低めに設定するとウォームなサウンドになり、高めに設定するとブライトなサウンドになります。

• **MIDDLE CONTROL** (ミドル コントロール)

中音域のトーンをこのノブで調節します。低めに設定すると高音域と低音域が強調されたサウンドになり、高めに設定するとファットなサウンドになります。

• **BASS CONTROL** (ベース コントロール)

低音域のトーンをこのノブで調節します。低めに設定すると高音域と低音域がタイトなサウンドになり、高めに設定すると重心が低く、深みのあるサウンドになります。

• **LEAD CHANNEL MASTER** (リード チャンネル マスター)

LEAD (リード) チャンネル全体の音量をこのノブで調節します。LEAD (リード) チャンネルの歪み具合を調節するVOLUME CONTROLと、CLEAN (クリーン) チャンネルとのボリュームバランスをとりながら、調節してください。

CLEAN CHANNEL (クリーン チャンネル)

• **VOLUME CONTROL** (ボリューム コントロール)

CLEAN (クリーン) チャンネルのゲインをこのノブで調節します。

• **BRIGHT SWITCH** (ブライト スイッチ)

オンにするとTREBLEよりもさらに高音域がブーストされます。

• **TREBLE, MIDDLE, and BASS CONTROL** (トレブル・ミドル・ベースコントロール)

LEAD (リード) チャンネルの各ノブをご参照ください。

• **CLEAN CHANNEL MASTER** (クリーン チャンネル マスター)

CLEAN (クリーン) チャンネル全体の音量をこのノブで調節します。CLEAN (クリーン) チャンネルのVOLUME CONTROL (ボリューム コントロール) と、LEAD (リード) チャンネルとのボリュームバランスをとりながら、このノブで調節してください。

• **PRESENCE CONTROL** (プレゼンス コントロール)

TREBLEよりも高い音域をこのノブで調節します。このノブは両チャンネル (LEAD・CLEAN) 共通となります。

• **DEPTH CONTROL** (デプス コントロール)

BASSよりも低い音域をこのノブで調節します。このノブは両チャンネル (LEAD・CLEAN) 共通となります。

• **POWER ON / OFF SWITCH** (パワー オン / オフ スイッチ)

本製品はスタンバイスイッチを非搭載のアンプとなります。そのため、アンプの音をミュートする場合は、INPUT (インプット) ジャックに接続されているケーブルを、クリック音が一回するまでゆっくりと抜いてください。

• MAINS SOCKET (メインソケット)

本製品を使用する際は、必ず付属の電源コードをご使用ください。また、本製品を置く場所を移動する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）を全て外してから行ってください。

• FUSES (ヒューズ)

本製品には、リアパネル上から直ぐにアクセスできるヒューズと、プリント基板上に搭載されているヒューズがあります。ヒューズの交換を行う時は、必ずヒューズ本体に記載されている仕様と同じものを用意してください。異なるヒューズを使用した場合、製品に致命的な損傷が生じ、思わぬ事故につながる可能性があります。また、ヒューズを交換する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）を全て外してから行ってください。

• MAIN FUSES (メインヒューズ)

メインヒューズ用のトレイは、主電源用のソケットモジュール内に組み込まれています。なお、ソケットトレイには、2つのヒューズをセットすることができ、ひとつはスペア用となります。ヒューズのタイプやスペックは、使用する国や地域によって異なりますので、詳しくは主電源用ソケットモジュール下に記載されている内容をご確認ください。

• B+ FUSES (B+ ヒューズ)

B+ヒューズは、MAINS SOCKET (メインソケット) 横のリアパネルからアクセスすることができますが、このヒューズ交換を行う際は、必ず事前に購入された販売店へ、交換するヒューズが正しいものかご確認の上、行ってください。

• FILAMENT FUSES (フィラメントヒューズ)

フィラメントヒューズはプリント基板上にあるため、交換の際は、必ず購入された販売店へご相談ください。

• BIAS JACK AND POT (バイアスジャックポット)

パワー管の消費電流をミリボルト単位で測定する端子です。ひとつの端子につき、1本のパワー管が連動しています。1mVと測定された場合、そのパワー管には1mAの電流が流れていることとなります。中央のバイアス端子がグラウンドになり、測定する際、テスターの黒いリード棒 (COM端子に接続) をこの端子に差し込みます。バイアスジャックでの測定により、各パワー管が正常に動作しているかの確認することが出来ます。

なお、バイアスノブで調節と真空管の交換に関しては、ご自身で行った場合、思わぬトラブルにつながる可能性がありますので、必ず購入された販売店へご相談ください。

• SPEAKER JACKS (スピーカージャック)

スピーカーキャビネットと接続する際に使用します。4Ω(オーム)の平行接続×2、8Ω(オーム)の平行接続×2、16Ω(オーム)×1の計5つとなります。使用する前に、必ず本製品と使用するキャビネットの入力値とインピーダンス (Ω) を確認し、適切なものをご使用ください。異なるインピーダンスのジャックを同時に組み合わせ (16Ωのジャックと8Ωのジャック、8Ωのジャックと4Ωのジャックなど)、使用することは絶対におやめください。

また、インピーダンスの異なるスピーカーを2台同時に使用することもおやめください。16Ωのスピーカーを2台平行 (並行) 接続する際は8Ωのジャックを2つ、8Ωのスピーカーを2台平行 (並行) 接続する際は、4Ωのジャックを2つ、それぞれご使用ください。

正しいインピーダンスで接続されなかった場合、チューブソケットやパワー管の破損、及びアンプ本体の故障に繋がる可能性がありますので、正しい接続方法でご使用ください。

• EFFECT LOOP (エフェクトループ)

本製品にはシリーズ (直列) 接続のエフェクトループが搭載されています。SENDジャックをエフェクターのINPUTと接続し、エフェクターのOUTPUTをRETURNジャックに接続してください。また、ケーブルが拾うハムノイズを最小限に抑えるため、エフェクトループに使用するケーブルはある程度の長さがあるものを使用し、エフェクター本体をパワートランスや電源ケーブルからは距離を取ってご使用ください。

• FOOTSWITCH JACK (フットスイッチジャック)

付属のフットスイッチを接続する際に使用します。フットスイッチを使用することにより、チャンネルの切り替えが足元で行えるようになります。アンプの故障に繋がる恐れがあるため、付属のフットスイッチ以外は絶対に使用しないでください。また、フットスイッチが接続された場合、フロントパネル上のチャンネルセレクタースイッチは無効になります。



警告：この製品は大きな音量で使用することが出来るよう設計されており、長時間の演奏は聴覚に支障をきたす可能性があります。ご注意ください。

・真空管について

真空管は、ある程度の寿命が決まっている消耗品です（※寿命は使用する頻度や使用方法によって異なります）。長期間使用していると真空管が動作不良を起こすことがあるため、不具合が起きた際の対処法を事前に知っておくとよいでしょう。まずは定期的な点検として、真空管のフィラメントのオレンジ色以外に、内部で何か他に発光しているものがないか確認をしてください。真空管に過剰な電流が流れた場合、オレンジ色ではなく、鮮紅色に発光する場合があります、この場合、内部で何かしらの異常が起きていることを意味します。また、以下のシチュエーションも考えられます。

- 1) フィラメントが光っていない。
- 2) 真空管の内部で小さな火花が上がっている。

これらの状態は、真空管に深刻な問題があることを示しており、直ぐに使用を中止し、その原因を確認する必要があります。

アンプから発するノイズに関しては、その原因が真空管であることが多く、プリ管はスピーカーキャビネットの振動を受けて、ノイズを発振する場合があります。

プリ管に関しては、交換後、特に別途調整作業等は必要ありませんが、パワー管の場合は交換後、バイアス調整が必要となります。パワー管交換後、最初に内部が鮮紅色に点灯していないかの確認後、バイアス調整を行ってください。パワー管のバイアスは30mV（±5 mV）で行ってください。2本のパワー管のバイアス差が5 mVを超える場合、ノイズの発生や本来のサウンドにならない可能性があります。そのため、マッチングされているパワー管を購入・使用することをお勧めします。



注意！：内部回路及びパーツの損傷及びアンプ本体の故障に繋がるため、真空管を抜いた状態では、絶対にアンプの電源を入れないでください。



注意！：電源をオフにし、ケーブルを抜いた後でも、コンデンサー内部には電気が滞留している場合がありますので、ご注意ください。

製品に関するお問い合わせ

Paul Reed Smith Guitars カスタマーサービス

support@prsguitars.co.jp